

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071401188		
法人名	医療法人 康整会		
事業所名	グループホーム ツーハーツ		
所在地	福岡市早良区次郎丸5-18-28		
自己評価作成日	平成22年11月20日	評価結果確定日	平成23年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の整形外科医院の協力の下、入居者の残存機能維持・向上に向けたリハビリを定期的に行っている。  
各ユニットに看護師を配置し、医療機関との連携を図り終末期ケアにも対応している。  
運営方針のひとつでもある、一人一人の個性を大切に、寄添い、見守りを行いながら、ゆったりとした生活が営めるようにケアを実践している。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか		
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ		
訪問調査日	平成22年12月14日		

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

### 自己評価および外部評価票

ユニット名: せせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出入口、スタッフルームに掲示し、常に意識し行動するように各自名札と一緒に携行し、いつでも確認することができる。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の挨拶を心がけ、毎月地域の公園清掃に参加し、終了後は地域の方が中心になって行っている体操を通じ交流を行っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験を受入れ、人材育成にも役立つよう、広く介護への理解が深まるように努めている。 福岡市の依頼にて建築協定会議のため施設の一部を会場として提供した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活発に意見を交換し、その結果をスタッフへ周知し業務に羽いさせる。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催による研修会等に参加し、介護サービスの向上に活かしている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権の尊重を安全性を両立させるための努力と工夫を常に行っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で字一切にあった事例を挙げて問題点や防止するための具体的な案を出し合い未然に防ぐ努力をしている。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、内部研修で取り上げ理解を深めている。現在、当ユニットには支援を受けている人はいない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明は十分に行い、不明な点を残さないようにしている。特にグループホームでの医療行為の範囲、受診時の際の家族の協力についてもは同意を得ている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や家族会などを通じて利用者、家族からの意見・要望があれば、十分に検討し運営に反映させるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議にて意見・提案ができる場を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績、勤務状況、自己啓発により、正社員への登用等、個々の資質向上により勤務条件の向上システムがある。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別によって採用の可否は決定しない。 できるだけ希望する日に休日が取れるよう配慮した勤務シフトを組んでいる。		
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修のカリキュラムに含まれており、日頃の言葉遣いを徹底指導している。		
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を毎月開催しスキルアップに努めている。外部研修への参加、資格取得のためのバックアップを行い、個々のレベルアップ、次世代育成に努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修等に参加した際には他事業所とのネットワーク作りに心がけ、新しい情報収集に努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	前もって好き嫌いなどの情報を得て、それを考慮した介護を行い、徐々に信頼を深めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談等で家族の意見、要望をよく聞き、安心できる介護を提供する。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談や情報などから必要とされる支援を見極めて隊おいに努める。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	計算ドリル、創作などいい書に過ごす時間を多く取り入れ共に支えあう関係を築いている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活や話されたことを家族の面会を通じ情報交換をしながら充実した生活が送れるよう心掛ける。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族同伴でドライブに出かけてたり、昔からの友人が近所に在住されている方もおり、ほぼ毎日のように面会に来られ、入居後も良い関係が続いている。		
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席を日頃の関係を把握して配置している。レクレーションの時には一つのテーブルに集り楽しい時下のを過ごしている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転居、在宅復帰等、施設から退去した後も相談があれば対応可能である旨を説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、対話を重視し、困難事例があればカンファレンス等で意見を出し合い、より本人に適した方法を検討している。		
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談や関係各所からの情報を基に生活歴等を把握し、入居後は徐々にうかがい、全員で共有している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記した申し送り帳、朝夕の申し送りで現状把握に努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コミュニケーションを多く取り感じたことは申し送りやカンファレンスで取り上げ、家族には必ず報告し介護計画に反映させている。		
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り帳に個々の情報を毎日記入し、スタッフが必ず目を通し、良いアイデアは即実践に移し、その検証結果も介護計画見直しに役立てている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との連絡を密に取りながら状態に応じて入居者や家族の要望を取り入れており、母体の整形外科医院、併設事業所と連携し行事計画を行い実施している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実習生、近隣中学の職場体験の受入れや、地域運営推進会議にてAEDの設置説明を行い、協力の依頼を受けた。防災時の協力体制についての話もあり検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関は本人、家族の意向に沿って支援している。家族対応が困難なときは施設で対応する。		
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が各ユニットに配属され、健康状態の把握をし、勤務外も常に連絡が取れる体制をとり、状態によっては時間外でも出勤し対応している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、看護師が定期的に医療機関へ訪問し、主治医、医療ソーシャルワーカー、看護師と情報交換を行っている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期を『慣れ親しんだこの施設で』と家族の希望があれば、担当医と連携を図り、看取りを行った事例があり、併設事業所の協力支援もあり、施設全体で取り組んでいる。		
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防機関より人形を借り、施設の看護師が講師となりAED使用、心マッサージ、人工呼吸の勉強会を実施した。 各ユニット、施設全体的な看護師の連携を取り急変時、事故発生時には対応している。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施。消火訓練では必ず散水栓を実際に使用して、誰もが有事の際に使えるよう訓練している。 地域運営推進会議にて地域との防災協定の話もあり今後の検討課題である。		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人に応じた声かけやタイミングを見計らい、視線を合わせて傾聴し、個々の尊厳を大切に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃の会話の中で働きかけを行い、自然な形で行われて何かをされる場合、自身の決定ができる様に援助している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れとして、午前・計算、唄、午後・体操などを取り入れ、食前には嚥下体操を実施しADL維持に努めている。参加は自由であり、ゆったりとした生活送っている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、好みの髪型にしている。毎朝、整髪の声かけ、お手伝いをしている。 日常着も職員が選ぶのではなく、入居者に確認しながら着替えの援助を行っている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	委託業者からの食事で、職員と一緒に盛り付け、配膳をし食事を楽しんでいる。感想や意見を聞き栄養士に伝えている。		
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎日チェック表に記録し、水分量は必要な方のみチェックしている。いつでも摂れるようにペットボトルを個々に用意し手元に置き水分補給ができるよう配慮している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、見守り、一部介助で実施している。夜間は義歯を外し洗浄消毒している。近隣の歯科医院からの往診を受けることができる。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間毎の声かけ、誘導を行い気持ちよく排泄できるように援助しており、パターンやオムツの種類は職員間で話し合い共有するようにしている。排泄チェック表により個々の排泄状態を確認するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を基本とし、乳製品を多く取り入れ、適度な運動や体操、水分摂取の管理により予防に努めている		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	体調を考慮しながらゆっくりと入浴楽しんで頂く。拒否の場合は声かけの工夫、時間や入浴日を変更して対応している。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室担当者がリネン交換、ベッドメイク、換気を行い、快適に過ごせるよう配慮している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方日に薬剤師管理の下、整理し、服薬時には、薬袋の日付、名前を確認したうえで誤薬が無いよう援助している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日できる範囲で唄、ゲームに参加され楽しまれている。折り紙が得意な人が、実習生等に披露したり、職員が教えてもらったりすることがある。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回家族と共に外出される。体調不良時には、日を改めて援助して頂いている。		
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭のみ管理している方がおり、近隣への買い物同行時に見守りをしながら、自分で支払う事ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	難聴のため十分に聞き取れない方は職員が伝えるなど解り易く説明している。余暇活動を兼ねて絵手紙を作成し家族へ送るなど実施している。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気や、採光には十分に配慮し、特に臭気には一番気をつけている。共用部分には季節の花や、観葉植物を配し、季節の飾り付けと一緒に考案、作成し楽しんでる。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方々で席を決めており、ソファなど思い思いの場所でゆっくり午睡したりして過ごされている。お一人の方は自席にて新聞、本をゆっくりと楽しまれている。共用部分は安全と清潔を常に保つよう留意している。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込まれ、写真や手作り作品など自分の好みで飾られている。居室にはカレンダーを貼り、家族の面会日を記し次の面会を心待ちにしている人もおられる。		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下には手摺を設置し見守り、声かけをしながら無理のない生活が営める。		